



櫛隆編
崎存輯

明治文語粹金

二

木 2
5699



門ホ2
號5699
卷



助字略解

暫

之レハシノ間
ノ義ニシテナ
カクヒマトラ
サルノコトコ
モチアリ

豫

之レハソラコ
トヲマヘカタ
ニナシヲクテ
云カ子テト訣
ス唐詩選ニ客
心争日月來往
豫期程ト云ト
キニハイコロ

明治文語粹金卷二

浪華 檜崎隆存輯校

紀事門部

政事 第一

三種神器

日本ノミ
タカラニ ○政体簡易 マツリコトノテ
ズクナルコト

愛民如赤子

人ヲカハヒカルコ
トアカコノコトシ ○百姓視之如父母

位

神武帝ノコト 禮原
ハ大和ノ國ニ在リ ○為民父母 百姓ノチ、
ハ、ノ ○皇胤

連綿

ミスチノ
ソ、ク ○天祖兼天 天テラス カミヨリチ
ニシノツ、キ王フコト ○地

神愛之

地神カチスチ
ヲウケタマフ ○事簡民安 ○為政寬恕

明治文語粹金

卷之二

ニハ彼地ニ着マツリコトノユ
スルニマチカツクリスルコト
ヒナシト前以セカヒノヒ
テコ、ロクミラクルコト
ヲスルノ詩ノ意味也又陸費
傳ニ將相和則士豫附トイヘ
ルトキニハウエノ大將分タ
ルモノカ一和スレハシタク
ノ兵卒ハイフマテモナクヒ
ツ、クニマテカヒナシト前
以テ見通シヲツケタルノコ
、ロモナ也

○風俗一變セカイノ○文明開化
○近世史乘チカコロノ○憑據的確
○海外形勢セカイノ○
條理秩然スチミチノシ○
各國沿革シヨコクノ○近日地學益開チカコロノ
○朝議勇斷事定咄嗟問テウテイノ
○政清吏肅○政平訟理○修法
○綜核人材人ノキ量ヲヨク○出於聖斷
○嘉納之○明賞罰以勸勤怠ホム
○建言モウシ○日夜孳々ツトムル○浮費並

素

之レハシタチト誤シテ白地ヲ云ニアラカシメト訓ス

用裁省ムタナルツヒ

○事遂寢

○宇内萬國政

體各殊セカイノ中ノマツリコト

得宜ヨキニトリ

○萬民同權タレニテモ權ト

○令

內外官員條對諸官員ヲシテツ

逆

之レハ將來ヲムカヘルノ意ニシテヤトヤノコトヲ逆旅ト云乃チ行客ノマサニキタラン、スルヲムカヘルノコ、ロモナニ

○廣求直言

○大行黜陟悪ヲシリソケ

○覺察

○日夜思之ヨルヒル

○蓋太古

○未成邦國闢草萊發屯蒙實祖宗之所

○然後黎庶蒸蒸繁殖於無窮君恩

○與天比宗迨至今世○萬國無比之皇威

○志在奉公ツトム

○民皆畏而

○割叛

○然後黎庶蒸蒸繁殖於無窮君恩

○與天比宗迨至今世○萬國無比之皇威

○志在奉公ツトム

○民皆畏而

○割叛

○然後黎庶蒸蒸繁殖於無窮君恩

○與天比宗迨至今世○萬國無比之皇威

○志在奉公ツトム

○民皆畏而

欲

○志在奉公ツトム

○民皆畏而

○割叛

○然後黎庶蒸蒸繁殖於無窮君恩

コレハコ、ロ
ニオモト立ツ
也遠欲得ト云
トキハチヨツ
トホシクナル
又欲遠得下
云トキハヤツ
得ントオモフ
又角抵欲以
誠其カト云ト
キハ今角抵ヲ
サセルノハ其
カヲミントス
ルノダヤ又欲
角抵以試其カ
ト云トキハ擲
来ニ角抵ヲシ
テ其カヲミシ
ト恩フテ井ル
ノコ、ロモチ

愛之○便宜輒行チカツテヨキニオコナウ○故英國富强
亦何足奇乎イキリスノ富强モワカクニ、オヨハヌト云意○先事奏聞○
上書以聞○表入不報ゴサイヨウナキコト○建請モツ
○患民不安寧タミヤスカ○減稅布告キヨエ
○民撰議院之說未行ハヤキコト○免
民田租○蒼生幸矣サイハイ○盖民之強
其人雖衆其智不能及貴族々々之仁
不如民自謀而其勇皆不及君權々々無
限而智與仁則讓焉智仁勇ノ三徳須更モハナルヘカラサルコトヲ示ス○悉
開倉賑救ニキヤカス○百姓蒙賴○民賴其

也又角抵以欲
試其カト云ト
キニハ既往ニ
角カヲサセタ
ノヲ其カヲミ
ントセシノテ
アツタ辰コ、
ロモチ也

且

之レハ七夜切
上声ソノウエ
ト訓シマアト
誤ス且夫且如
ト云ノ類ハ句
頭ノ複用皆且
字下一段ノ全
文ニ蒙リ天宇
如字其下ノ一
語ニカ、ル也

利○共和政事イキリスノマツリコト○合衆國風合衆國ノフウ
○國事多艱シコトノオホキ○問民疾苦○田野闢
民人給田ハタヒラケテ百姓大ニヨロコフ○比歲不登毎年キ、ン
擇其善者論之ヨキコトヲシラヘ○金穀之權カ子
權威メトノ○吾邦君權之隆萬邦無比ワカクニノヨウナル君權ハ
○米不翔貴米カヒトク○戶口日增市町
○家有餘積ミナクタク○把賞罰之柄
持黜陟之衡○國用不足カタラヌ○國計
既虛同○民聚為盜百姓一揆ノオコル○土寇大起
○細大區處各有條理大小事氏ソレノミナスチカアル○政

又猶且或且猶然且或且必且且復且必且欲ト云ノ類ハ大概句腰複用ノ例ニテ且猶ハ且字ノ下語ニカ、リ猶且ハ且字上語ヘカ、ル餘ハコノ例ニテラヘ次ニ且ト又トノ差別ハ凡ソ文ノ中段ニ又トアレハツノ事ヲ並ヘテ前段ト同シ位ニシテ言フコ、ロモ子也又且トアレハ前段ノ

教倫替 ○賜物賞之ホウビヲ ○根究情敵事情

ヲオシキ ○官無留事トリアツカヒ ○牒訴倥偬御用

ソカシ ○治平為天下第一 ○得眾者無怨

言ソミヒトガ不足イハヌコト ○周巡郡縣 ○父老無不感泣

老人トモカナカヌハナシ ○誓神明以定國典ミカトノ御 ○野

無曠土土地ノヒラ ○生齒日繁人カスノ ○民大

安堵百姓ノ安 ○蝗蝻大起イナムシノ ○天下

不雨 ○躬自祈禱雨ナトヲ ○民便之 ○四方

未露王澤マタユキト ○恢弘大業オホシゴト ○

相畝傍山東南為國之奧區定為都焉ムシ

事ノ上ニココノコトヲチコツトソヘテミルコ、ロモチアリ故ニ又トアル下ノ語ハ全篇ニ照シアスカレ也且トアル下ノ語ハ王篇ニ又カズチヨツトソヘモノニシタルコ、ロモ子ニ

業之志オホシコトノ ○捐船稅以便舟工 ○募

民興工オホシコトノ ○兆庶樂生百姓カトセ ○勸業

之事諸事ノミコミラス ○乱賊烏合攻剽鄉邑モル

カアツマリサトムラヲカスムル ○戰地悉平イクサカシマ ○可謂千

歲盛美也千年一度ノメデ ○實是千歲之一遇

也千年ニタツター返、ヨキテアヒ ○群臣為之感動百官カタカミナ

遣使索驗ツカヒヲタテ ○炊烟盛起百姓ノニ

民之富乃朕之富也百姓ノサカエハヤハリ ○

縱酒漁色不行狀 ○詔勸

將

ヒキツレテ持テユクコ、ロアリ又ハタト訓スルモ同意也將行ト云トキハソロクユク用意ラスルコト且行ト云トキハステニ足ラアクル也欲行ト云トキニハ行ントオモヒ立ツキニハエカレトオモフコトニナリカ、ル也且將必將將必殆將尚將將或若將將亦行

農桑 ○當今之計タ、イマノ ○結以信義トノ
誅戮逆臣ワルキケライ ○天下晏然
蓋非淺識所測オロカナルモノ、 ○文致太平武定亂
畧 ○車駕臨其第ミクルマノヤシキ ○建制度
典禮憲章レイギヌノ ○中興之祖 ○公私充
實カミシモ ○時譏其煩碎クタクシキ ○時值大
早オホヒ ○臨朝聽政テホシ ○道洽政治澤潤
生民コクオサマリ人民 ○內無擅權之患外無不
服之憂内外トモニオ ○噫明治政府之盛今時ヲ
○明治之言實有所以也明治ノ語名義ト ○可

將將向示將等皆句腰複用ノ例也將且ノ別ハ將ハヤカテシカ、ルトコロニテ變也且ハ既ニセリタルトコロノヤシツノニテ急也

謂明治之人也明治年間ノヒ ○明治之偉臣也
○至矣盡矣ナニコトモユ ○某自兼奉
職ツトメ ○始昇官ツトメニ ○欲報天恩之萬
一也ゴランノ一分ニム

適

之レハ莫之レ反也、口ノツホニテウト打合タルヲ云コノ字ヲマサニタマ、トド、訓スルモ丁ト失ノ的ニ

先是松平容堂之歸國也、益憂慮時艱、慨然有更張之志、以為朝權之復、可得而期焉、因欲再赴京師、議定之、會疾不果、是歲九月、上表謝之、遂令藩臣寺村左膳、後藤象二郎、福岡藤治、神山左兵衛代己條陳

近事紀畧

石津賢勤

中リタルヨウ
ニツノコトニ
来リ合セタル
也通作的

屬

之レハオリカ
ラソノ時節ニ
中リタルヲ云
オリカラト訣
ス

祇

之レハマハリ
其処ヲハナレ
スシテ始終ッ
レニナリニク
コ、ロ也音支
又作祇又去声

其意大要教條曰天下政權宜在朝廷々々
宜設議政局制度法令宜悉自政局出
曰政局宜分為二称以上下議官宜不問
貴賤選舉正明純良之士曰議事者宜絕
私曲主公平不問既往之是非特考今後
之得失與天下更始一新矣曰制度典禮
雖自有古來律令然時殊勢異不可拘泥
焉宜更革宿弊折中旧制以立時勢切當
之法曰都會之地宜必設學校教育羣材
供國家他日之用曰宜於京攝之間結一

音質シカルニ
孫季昭ハ分テ
易ノ祇梅ヲ音
岐トシ詩ノ亦
祇ヲ音與トス
此未々深ク藝
ハサル也祇ハ
禾始熟也沉約
ハ音竹ア切ト
シ梅雍音祇ハ音
章移切トス

多

之レハ前ノ祇
ト同シ音支マ
サニト訓ス釈
文多或作祇論
語ニ見其不
知量也トイヘ

大軍團号為親兵以守衛帝都曰外國交
際宜採諸藩公議新修至當規約以信義
與之通商而事權亦悉出朝裁凡此數條
苟能舉行則挽回皇運張皇國勢以與萬
國比立無愧者其豈終難哉是乃今日之
急務而容堂之至願也伏乞採擇焉時松
平安藝守亦建白將軍說以大義因勸解
其政柄而將軍既有所深思遠慮至是意
益定十月十三日大會列藩君臣于二條
城以歸政奏案示之諮詢意見譜第將士

▲端

之レハ端緒ノ義ニシテ其ハシノ出テケル処ヲ云ニ許皇右傳ニ奈何妾薄命端遇竟寧前トイヘリ

等意頗狐疑而薩藩小松帶刀土藩後藤象二郎備前藩牧野權六郎宇和嶋藩都筑莊藏等同聲懇懇之象既退將軍特留帶刀等賜坐縱論之議遂定是日將軍具疏奏之略曰臣慶喜謹按昔王綱解紐相家專權陵夷迨保平以還天下政柄舉移武門焉而爭亂相仍生民塗炭泊及臣祖家康終能得戡定禍難以輸勤王之誠皇家思其微勞仍寄以閩外之任子孫相承奕葉奉職蓋繼世十有五歷年二百餘惟

▲昂

之レハキツトソレニナリ立テアルコ、ロ也賈誼傳ニ天子春秋鼎盛トイヘリマサニ

ト訓ス

▲正

通作政マトモニト訓ス去声乃チ邪ノ反也正面ニテ其コトノカケレトキハジダ也蘇秦傳ニ秦之行暴正告天下トイヘリ又韓非子ニモ正ニ是也トイヘリ

▲方

之レハモト方而ト熟字シテ

蒙海岳之天罷未效涓埃之私報不幸及臣身國家多難政刑失當終至今日之危急是皆臣薄德之所致罪至深也矧今外國輻湊時勢不一變軍國之務內外蠭集非復區々旧制之所得而濟焉臣然後益知政令不可不出一途朝權不可不復上古也臣故願辭柱石之任解兵食之柄謹奉歸之聖朝天下之事一仰宸斷以與列藩同心戮力保護皇國於無窮照耀天威乎海外是乃臣慶喜所以圖尺寸之報也

マムカフテト
誤マ方位ノト
キハ向フテア
ルト云フニ又
ミサカリニト
訓スルモ水ノ
出バ十ノ盛リ
ナル処ニ向フ
コ、口モチ也
方ハ動ニテコ
チラヨリハカ
リテ言フ用ニ
屬ス正ハ靜ニ
テ其物一ツキ
テ言フ体ニ屬
ス商書ニハ方
興ト云檀弓ニ
ハ方小ニトイ
ヘリ

謹奏十五日將軍入朝公卿以下皆會大
廷議將軍奏事小松帶刀等亦與焉是日
朝廷遂聽將軍辭職優詔報之曰命召列
藩會議新政蒙召者凡五十餘藩尾藩大
納言越前宰相嶋津修理大夫山内容堂
伊達伊豫守等相踵入京師自餘移疾不
至者亦使重臣代來而德川内大臣仍駐
在二條城屢條奏庶政仰朝廷新裁二十
日廷議召諸藩士咨問七卿処分及外國
事宜次日各上書奏對其議概以為宜姑

▲行

マサニト訓ス
前出

▲偏

之レハ片意地
ニトリテアル
ノ義也偏屈偏
頗等皆同意也
張儀傳ニ偏守
新城トアルノ
ハ一途ニ城ヲ
マモルコト也
又ニハ豁ノ偏
持律管當耳ト
アルハ律管
ハツカリト云
ノ義也

委任内府待諸侯會議史之二十九日奉
宣命使權大納言日野資宗於泉山山陵
告朝政復古先是内大臣之引罪辭職也
尾張大納言以身在三家列扶翼無莖自
劾奏辭官爵廷議稱其積勞優獎不聽十
一月更勅大納言及越前宰相建白時務
於是兩侯勤王之志益固十二月八日朝
廷召德川内大臣以下諸有司及在京列
藩内大臣老中等稱疾不朝尾越兩侯以
下皆會廷議遂支防長処分復毛利父子

之レハマシハ
リナクソノコ
トニトリテマ
ル意也ヒタス
ラモツハラト
訓ス左氏傳ニ
范叔一寒如此
我トイヘルハ
范叔ノ貧乏ナ
ルコトホカニ
ナラヘクハラ
フトキ實ニソ
ノレヲリナリ
ト云コ、ロモ
チ也又大學ニ
一是以脩身為
本ト云ハモ
ツハラフ義也

一 及支族官位許其入京布告天下或傳是日諸藩之朝會也廷臣大原宰相出傳朝命象相視愕然紛議大生徹曉乃退己而處分之令下越前宰相奉使傳之內大臣云是日復三條實美等五卿及故錦小路賴德官爵獨澤宣嘉以不審其所在不與焉命物色之九日禁彈正尹賀陽宮攝政三條左大臣以下攝籙四家及廣幡柳原飛鳥井葉室等諸卿入朝而命松平肥後守松平越中守解職就國因令薩土藝等

誕

之レハ實事ヨ
リハ一段カサ
ラカケテ言フ
コト也大雅誕
彌厥月トイヘ
リ

大

之レハ小ト云
對ヲコ、ロニ
モチテ小ニハ
アラヌ大也ト
云也ニ用ユ周
書ニ司有大贊
トアルノハ贊
ノ大ナルトイ
フノミ也又易
象傳ニ大有慶

諸藩代守衛九門象皆戎裝蓋戒非常也十日朝廷用薩藩議遂下令曰德川内府既辭軍職以解政柄朝議断然聽之矣抑癸丑以來天步艱難外患危急以致先帝積年之宸憂汝象庶之所遍知也故今欲興復王政挽回國威上慰先帝在天之靈下副蒼生來蘇之望以與天下同休戚因自今廢絕攝關幕府及議奏官傳奏司守護職所司代權置總裁議定參與三職登庸人材洞開言路萬機基神祖創業之始

也トアルノハ
大ノ字モトヨ
リ國ニモ家ニ
モ身ニモヒロ
クヨロコヒノ
アルヲ云也

奄

之レハ一面ニ
包容シタルノ
義也マルクニ
ト訳ス商領ニ
奄有九有トイ
ヘリ

丕

之レハツ子ニ
ハスレテ大ナ
ルノ義也多至
ニ惟天玉建ト

庶務從天下公平之議裁之以聖心衆宜
一洗驕惰之汚習奮發勉勵以效報國之
誠是日長藩重臣毛利内匠等率衆入京
師先是内匠等既在攝州西宮時朝廷方
許其入洛藝藩傳命於是發西宮赴大阪
進至山崎関門津藩守吏未悉朝旨因呵
禁之己而事釋長人乃宿山崎天王山及
衆生光明寺至是乃入洛東方廣寺尋五
卿亦歸朝焉十二日罷新在家門備前藩
宿衛命長藩代之長藩感激踊躍奔命是

イヘリ

駮

之レハ超邁出
凡ノ義ニシテ
スクレテサカ
シナルヲ云又
駮馬ト云トキ
ニハ馬ノスカ
タウツクシク
他ノ馬ヨリモ
一層スクレハ
シルコトノト
クサカシナル
ヲ云ニ周頌ニ
駮奔走在朝ト
イヘリ

荒

夜德川内大臣及松平肥後守松平越中
守等率部下盡赴大阪蓋以物情激動事
變不測尾越二侯勸令避闕下也衆已去
二侯乃奏報其實因請專責之罪朝廷不
問十四日禁門乃解嚴是日廢京師町奉
行所命笹山膳所龜山三藩權斷獄訟令
大洲水口等六藩巡邏市門二十四日廷
議欲收幕領以供國用尾越二侯以其激
衆心力諫止之於是議止二事令二侯傳
旨内府其一内府既辞官職則宜準廷臣

之レハアテト
ナクト誤シテ
荒唐ト云トキ
ハツトシタル
コト乃チウリ
ト云コトニ用
ユ實ヲ尅スレ
ハ海面又野色
ノ手ヒロク限
リツカヌヲ云

必

之レハ其當然
コ約スルノ義
ニメキツト、
誤ス不必然
トキハサフテ
アルノミテハ
アルマヒカフ
アルコトモア

故例、稱以前内府、其二内府既解政柄、則
軍國資用、不得_レ不取_レ諸其管地、然宜待_レ天
下公議、確定_レ之、二侯乃銜命南下、具諭_レ之
内府、三十日皆還京師、先是朝廷撤_レ三條
橋京尹榜文、更場以參與新令、令云、朝廷
自今親裁萬機、與_レ天下更始、然至德川祖
先之良法善政、無_レ毫有變更焉、象庶宜奉
戴聖旨、安堵營生、又告其意於列藩、明年
正月、更定_レ三職分課、有_レ杣川師宮、總裁如
故、三條前中納言、岩倉前中將副之、而前

ルヘシト云意
也又必不然ト
云トキハキツ
トソフテナイ
ト云意也又不
必能_レハキハ
彼レカト能_レマ
ルテハアルマ
ヒト云意也又
不能_レ必_レトキ
ハ我コレヲタ
シカナリトセ
ラレ又意又必
不能_レト云トキ
ハキツト能_レセ
ヌ意又有_レ必
得_レト云トキハ
必_レ字ノミニカ
ル又必有所
得_レト云トキハ

中納言兼外國事務總督、前中將兼軍務及
會計總督、其他朝野名賢、相踵登庸、人材
蔚興、庶績漸熙、是月遂令海内云、世道之
變至此、大勢誠不得已、朝議因_レ支策、欲更
開外交之路、新結條約和親、上下一致富
國強兵、以輝_レ國威乎海外、萬國象庶宜體
此旨、勉勵從事、尋傳旨兵庫外人、々々奉
命、其歲三月、英吉利、荷蘭、佛蘭西、亞墨利
加、各國公使始入朝、天皇引見之、賜以優
禮、公使大悅服、僉呼萬歲而出、癸丑開邊

必字全体ニカ
ル

會

之レハ彼此ト
出合ヒタルコ
、ロモ子也杜
、鶴傳ニ解昇車
馬客會須用中
國人トイヘリ

以來、朝禁嚴密、外人不得望闕、至是始入
京師、々々人相慶曰、不圖今日覲越裳氏
之至也

刑獄 第二

定

之レハ我ヨリ
推シテサタム
ルノ義ニ又確
定ト云トキハ
シツカリソノ
事ノウコカサ
ルノ義也定計
ハ往ニ属ス會

獄乃定コウキノ ○獄遂成 ○新律綱領律書 ○
改定律令同上 ○使人從容私問之ナニゲナクヤ
ハラカニタツ
○守法公平エコヒイキ
ナキコト ○遂一言而吏 ○
又一々畧訊之 ○洞見事情コトカララ
ヨクミル ○治
獄多精察シラヘル ○為吏長於吏獄コトジヲサバク
コト上手ナル
○再三喻之 ○吏嚴訊之カガモン
スル ○教訓

要期支ハ来ニ
属ス必ハ来ニ
モ用ユ

計

之レハ勘定シ
テミルコトニ
乃チ惣計又計
算ナト、云ツ
モリアヒト誤
ス商量シテ微
合スヘキノ義
也

料

之レハワケヲ
付テミルト誤
ス

辨告イロクコトヲワケ
テオシエサトス ○答一十ムチウ
ツコト ○徒刑
○潛意以考之テ
エキ ○善断獄 ○並準律論
○遂得其情情ヲヨクク
ミトルコト ○服詞皆具ソノ
ソコチカキノ
ソロスコト
○罪案書サイニンノ
キヤウ書ノ ○其案乃結ツミ
テケツダンスル
○執而詢之バクシテシ
ラベル ○問驗既明シラ
ハツキリスル
○檢案反覆披閱クチカキ
ヨクシラベル ○下吏
効治 ○立支配之 ○警察官吏之所送也
○是檢事之職也 ○呼還問狀ヨヒカ
ヘシテヤウ
スヲタツヌル
○有何確據ナンゾ
タシカナル ○確證以論之シヤ
ウコ
○不用保釋條例代人出ス
コトナラス ○收贖シヤ
ウコ

要

之レハセヒニ
シラアルヨウ
ニトスル也馬
援傳ニ男兒要
当死於邊野ト
イヘル如キハ
オトコト生レ
テハ是非くタ
コシノウエニ
テハシナヌ野
ハラニカバ子
ヲサラスニマ
チカヒナシト
云コ、ロニシ
テセヒくノ
義也

金幾許

アカナヒキン
イクホトゾヤ

○盡真諸法

○窮究其事

シラヘル

○事遂白

コトカアキ
ラカニナル

○駭之果然

マヘノハンタンヲ
カタクトリマモル

○服詞皆具

ガクチカキ
ガソロフ

立支

○曉譬曲直

○片詞

侍無證

○果無事實

○手書供狀

○乃命拇印

○窮究其事

○召戸長若伍長

審質

○窮究其事

○令面

相質

○庭鞠之

○遂引其人

使之對證

○是正條之所難也

期

之レハソノコ
トヲアテトニ
スル也唐詩選
ニ豫期程トイ
ヘルノハイツ
コロニハマテ
カヒナクカノ
地ニ着スルニ
マナカヒナシ
トアテニスル
也

○質劑且亡

○民刑交際

固判然

○執之曰殺人者汝也

○自投請罪

○自訴法庭

願就死焉

○備加考掠

○拷問萬端

接送君

○送之法官

○有不服心

乃欲訴上等裁判所

○立

兼伏法

○往來覆訊無異詞

○意其有冤

○覺情狀非是

○立命脱其械

○法官斟酌情

○絕而復蘇

○法官斟酌情

○法官斟酌情

ステニ断シテ
アリテ知ラル
、又可断而知
ト云トキハ將
未一断シテ知
ラレフト云意
ニ

史

之レハ其方ヘ
ナレテシマフ
ヲ云フンキツ
テト款ス國策
ニ史不相關矣
トイヘリ

約

ク、リト訣ス
カナラス前出

量

服

故造

其証

口不能解

一詞

桔之

ヤクニソノコ、
ロヲクミトル
○辞終不服
セヌコト
○堅不

○強辨不服
○况亦有大審院乎
上告マタ
不服ナレ

ハナヲ大審院
ノ審判アリ
○審判黑白
シロクロワ
○但言無之

サラニホ
エナトイ
○百口不兼
○カ辨
○カ辨冤証
○有心

モトヨリワケアリ
テコレラヘル
○終身懲役
一生涯トケイ
○燭

ムシツラ
○以痛自証
○被証為賊
○百

ナニトイフテモイ
ヒワケカナラス
○汝從實供招
アリノマ
ニハク

ヒトツノカラタニ
フタリノナマヘ
○不能強置

一ゴノ申シ
ヒラキカナヒ
○三年冤獄一朝而雪
○嚴

キヒシクテジ
ヤウヲ入レル
○拷訊苦痛遂自証服
セメガヒ
ドキニヨ

悉

之レハヒトツ
ヅ、カソヘテ
ノコサヌヲ云
悉無遺失ト云
トキハタ、ノ
ヒトツモノコ
サヌコト悉
我ニナリテ云
畫ハ彼ニシテ
云

備

之レハソロエ
テオクコトニ
全備トイハハ
コトクソ
ナハルノ義也
備忘トキハ

リツミニ
フタスル
○戴罪自贖
○叩頭服罪
○謀殺

コロ
ス
○盜驚服
○此必姦
○屍親識認
ガシカイ

ヲミト
ムル
○多是國事犯之者取
大ガイ國ゾ
○鳴

カミヘイヒ
○自首
申出ル
○自訴
同上

ククシラ
○殺入者汝也
○為盜所殺

○各當其罪
○乃見釋
○報官
○盜用官

ヤク処ノイシ
ハグハンスル
○擬斬
ササマル
○度死獄中
ニラス

ルコ
○減死一等
○謀死其夫
ハカリコロス
○

ヲソレテ言モ
○驚惶不出一語
○驚顔如土
○

トスル
○特減死
○没入干官
トカニ

ワスレタルト
キノ用心ニソ
ナヘラクコト
ヲ云左氏傳ニ
險阻艱難備
之矣トイヘリ

▲盡

之レハノコリ
ナクト誤ス不
能盡對ト云ト
キハ一ニコト
ヘガテケヌコ
ト又盡不能對
ト云トキハ全
体コトヘヌテ
ケヌコトニ盡
ハ段ニニツク
ス氣味アリ又
發ハハシメヨ

○籍没其家カサイラケ ○立辨メ而釋ス之ヲ ○

貫其死刑而降宥之死ヲユルシテ ○求生不得カルクスル

死罪則即告之本省 ○漸懼服罪ヲソレテツミ

○乃照之例圖命收贖焉 ○以婦女故減

其罪一等 ○处以重罪 ○欲從末減ツミヲカ

○由是得釋 ○曰此必許也 ○立支配ツモ

之タナマナサハ ○究無端緒ツカマヘト ○為吏長

於史獄クレヲサハクコト ○殺人國家之大禁也

○即是持兇器劫盜也 ○以寶貨偽造罪

リ打出シテ云

▲單

之レハ彈ト同
シツノツクル
処ニ至リツメ
タルヲ云平声
ヒトヘニト訓
ス單騎ト云ト
キハタツタ一
人リノ馬ノリ
武者ト云コト

▲詳

之レハ略ノ反
ニテツノコト
ヲコマカニツ
ケルコト也

在獄三年カン札ノコヘオモテロ ○善為鈞距以得

事情鈞距ハ隱密ナル事 ○潛意以考之コ、ロヲシスカニ

○實是司法之正律也

近事紀畧 石津賢勤

内勅之下水戸也掃部頭等廉問得實至

是具辭譴之云前中納言憂國竭慮建議

百方亦不負維城者乃憤其言不行陰操

縱家臣黃綠朝紳越俎踰分私奏持論且

嗣君之定以其與持論相反遂謗構幕政

僥倖勅旨人心為之惑内訐為之萌雖事

...

仲舒傳ニ謀
延特起之士ト
イヘリ

具

之レハ十ヲハ
十ヲナカラナ
ラヘ言フコト
也天台宗ノ十
界五具ト云ト
キハ十界ナリ
ガヘテ一ニ上
ニリナハルノ
義也

畢

コノ字モトア
ミト云字ニシ

成家臣罪自有所歸然幕府寬厚不忍嚴
譴姑從宥典以存懿親其宜就國禁錮終
身又請中納言以不能匡救父過鎮撫藩
臣禁其登營尋釋之讓刑部卿使其退老
屏居幽屏松平容堂太田道醇禁松平讚
岐守松平大學頭松平播磨守及水戸附
家老中山備中守登營停作事奉行岩瀨
肥後守軍艦奉行永井玄蕃頭西城留守
川路左衛門尉大久保伊勢守小普請奉
行淺野備前守駿府町奉行鶴殿民部少

テクル卷ノ意
持ナリソノコ
トヲナシシマ
フテト云コト
之案スルニ畢
ハ既往ヲ云字
ニ

肩

之レハ瑣碎ニ
シテクタク
シク言フニコ
トクタクトモ
訓ス

訖

之レハツマリ
一説ス前出

輔等職屏居之既而罪支釣堂數十人各
具獄案云水戸家宰安嶋帶刀與同藩茅
根伊與之助、鶴飼吉左衛門、其子幸吉、鮎
澤伊大夫及小林民部大輔、飯泉喜内、橋
本左内、日下部三次、婢村岡等謀、覬覦前
中納言密旨、擬議刑部、嗣立、誑惑、搢紳、
要求、綸旨、事端既白、罪狀非輕、因賜帶刀
死、伊與之助、吉左衛門、左内、喜内、竝、斬、
梟、幸吉、首、放、竄、民部、大輔、伊大夫、及、大覺
寺、宮、臣、六、物、空、萬、青、蓮、院、宮、臣、伊、丹、藏、人、

▲既
コトクニ
ステニト訓ス
ルモ同意也

▲卒

之レモコトク
クト訓スツイ
ニト訓スルモ
同意ニ

▲皆

之レハミナソ
ロヘテ云ヨト
ハ皆不可識ト
云トキハ皆ノ
字全体ニカ、
ル又不可識

知恩院宮臣池内大學、鷹司家臣小林越前、三國大學、三條家臣森寺若狹守丹羽豐前守一條家臣入江雅樂頭等、伊三次既死于獄、因流其子裕之進、而禁錮村岡及鷹司家臣高橋兵部大輔、久我家臣春日讚岐守等、其他連坐者亦多、徃々稱冤、左内各某、初學藩主密旨、周旋闕下、盡力國事、及捕吏按之、曰、密旨係何事、左内抗言曰、既云密、所以不可明言、遂被斬、其在獄中、慨然有感、手注資治通鑑、至漢紀而

ト云トキハ皆ノ字ノ物ノミカ、ル又皆不識ト云トキハ皆字上ニ在ルニヨリ主ナルヲモテ全体ニカ、リ又雖皆委皆皆使皆雖舉皆等ハ句腰複用ノ例ニシ雖皆ハ皆字上ノ語ニカ、リ皆雖ハ皆字下ノ語ニカ、ル他ハ知ルヘシ皆ハコナタアナタヨセ合セテ云又卷ハ我ヨリアルモノ

就刑、又作詩云、二十六年夢裡過、顧思平昔感滋多、天祥大節嘗心折、土室猶嗟正氣歌、蓋死年二十有六也、先是、死士吉田寅二郎、賴三、樹三郎、梅田源二郎等、皆在縲紲、初甲寅之秋、松蔭以下田之舉、獲罪於幕府、禁錮于本藩、尋繫于獄、而志弗少撓、憂國益切、日以尊攘、期望幕府、而幕吏懾懦、漸主和議、或勸松蔭舉事討幕、松蔭以其背大義、諭止之、尋釋出獄、屏居于家、時大老掃部頭專用事、踈斥三家、把弄國

ヲコトクク
云ニ

▲成

之レハ思ヒ合
フテトレモク
ト云コト也皆
ハ体ニシテ外
ヨリサシテ言
フ成ハ用ニテ
ソノモノニナ
リテ云

▲僉

之レハソノ処
ニ集テアル人
ヲスヘア云舞
典ニ僉曰舞哉
ト云

憲五國之約、不經奏而許之、天朝震怒、志士痛惜、松蔭知幕府之不可復諫、乃以所著時勢論呈廷臣大原宰相、宰相篤獎論之、為書七世滅賊四大字賜之、松蔭益激厲、會老中間部下總守西上、收拘黨人、松蔭聞之、奮然死、欲狙擊下總守、遺書文兄脫家而去、事竟不成、本藩憚物議、復繫之獄、既而幕府命藩臣永井雅樂、檻送松蔭于江戶、幕吏詰以投匿名書於禁中、及與梅田源二郎謀事、松蔭素與源二郎不

▲舉

之レハスヘテ
ヒツクルメテ
イフコトバ也
楚辭ニ舉世醉
我獨醒ト云ハ
世カイ中ガミ
ナニゴリワシ
ヒトリ潔白也
ト云コ、ロ

▲聲

之レハソコヲ
タ、ヒテト認
ス

▲該

相容、投書之舉、亦始無其事、因明辨其誣、更告以呈書廷臣及圖問部故、幕府所疑、非松蔭所為、而松蔭所計、則出幕府意外、幕更始大驚、遂死、死時年三十、松蔭一名矩方、字義卿、別號二十一回猛士、餘已見前、其肖像自贊有云、讀書無功、今撲學三十年、滅賊失計、今猛氣廿一回、實是五月囚中之作也、源二郎名義質、若狹人、因號雲濱、下帷京師、甲寅九月、魯艦突入攝海、大和十津川處士等相謀擊之、推雲濱

之レハカ子ツ
ムノ意也

▲竭

之レハカツ、
リト誤ス

▲裁

之レハコレキ
リノ持マヘヲ

云裁ハ用僅ハ
体張儀傳ニ雖

大男子裁如嬰
兒トイヘリ

▲才

ワツカ

▲財

為謀主、以魯艦即去不果、既而黨錮事興、
檻送江戸、頼三樹三郎聞其就囚、作詩哭
之、尋三樹三郎亦被拘、三樹三郎名醇、字
士春、号三樹、又古狂生、即山陽外史第三
子也、幕吏以其與源二郎、及梁川星巖等
私議大政、游說朝貴、罪之下江戸獄々中
作云排空手欲掃妖星、失脚踏來江戸城、
井底痴蛙過憂慮、天邊大月缺光明、身臨
鼎鑊家無信、夢斬鯨鯢劍有聲、風雨他年
苔石表、誰題日本古狂生、星巖名孟緯、字

同上

▲總

同上並ヒニ裁
ト同シ

▲僅

又作勸テツト
ハカリト誤シ
テイサ、カナ
ルホトノ処ヲ
云被用ノトキ
ハ僅少ト云疊
用ノトキハ僅
々ト云又コノ
字ヲチカシト
訓スルハ近ト
同意也

公圖、称新十郎、美濃人、寓京師、以詩鳴世、
吉田松蔭嘗寄所為策論數篇、星巖上之、
廊廡得賜天覽、松蔭聞之、深感其榮、間部
下總守之入京師、星巖乃呈所作詩若干
篇、以諷時事、聞者足以戒焉、尋病卒、享年
七十、後三日、黨獄乃興、所在収捕、而星巖
已不遭禍、雲濱示亡、幾死于獄中、獨松蔭
與三樹、則罹參刑、天下悲之、初幕府按三
樹獄、不抵死、而三樹憤慨激烈、對吏不屈、
大詈時弊、遂被斬、年三十五、實是十月七

▲劣

之レハ優ノ反
ニシテマタツ
子ナミノ処ニ
オヨハヌヲ云
木經北面有知
顔落劣得通歩
トイヘリ

▲代

之レハアトヲ
ツキカワリニ
ナルトキニ用
ユ代理ト云フ
トシ天官書ニ
五伯代興更爲
生命トイヘリ
代ハ体ニテ用

日也、二兄曰餘一、曰又二郎、皆傳家學焉。當此時天下氣節之士、株連蔓引、往々不免。藤森恭助示坐內勅之事、前已禁錮不用。至是以罪放逐、謫居流寓。至於文久壬戌十月八日、病卒。謫所年六十三。恭助名大雅、字淳風、号弘菴。又天山、江戸人。初游古賀精里門、文章經濟、雄視一時。及外議起、大憂時事、嘗建築幕府、号曰新政談。雖時不用、傳行於世、可以窺其抱負矣。其病中作云：伏枕期年、鶴骨支猶聞時事、思如絲。

ニ称ス更ハ用
ニテ事ニ称ス

▲狎

之レハアチラ
ヘナリコチラ
ヘナリシテヨ
リソフテユク
ノ義也カハル
ト訓ス

▲間

之レハソノア
ヒタニ外ノコ
トヲハサムヲ
云マ、ト訓ス
ルモ同義也ニ
三間ナト、云
トキハソノア
ヒタニハサマ

空餘滿腹經綸作、把筆枉書絕命詩、蓋絕筆也。有僧月照者、京師清水成就院主也。是歲十一月以黨事死。

忠義 第三節 附 第三節 上死

實是明治忠臣也。コノコロノホンマノケライト云 ○忠臣不事二君。○食君之食、避君之難、非忠臣也。○精忠雄節。○敢以死爭。○面折廷諍。マノアタヒロクシキ ○曰、食人之食者、死人之事。○極言直諫。ユカミナクイサムル ○扣馬而諫、乃止。○心如鐵石、老而弥篤。コ、ロカタクトシヨルホトナラアツクナル ○侃然正

ル、ホトノア
ヒアルユヘニ
各々又作間

拾

之レハ左右相
タカヒニソロ
ヘルコト

更

之レハモト更
更下孰シテカ
ハルノ義
也又サラニト
ヨム同意也

交

色侃然ハヘツ ○知無不言ハテ無不盡シ ○欲報ス

天恩之萬一也スコシハカリテモ ○愀慨直辞ゴランニムクヒタイ

色不變容マツスクニツヨクロン ○瘞身苦心以シ且ツカラ色ヲカエヌ

憂天下トイハル ○一死報國耳 ○可謂社稷之臣オホヒニ

也ナケキカ ○大慟舉身投地乃自刎ナケキカ

何為ラタヲ地ニナケ自ラク ○天一高其節ヒハ子シヌルコト ○諤々乎無所隱也

○持憲無所撓直言ス ○苦身焦思ヲト

○立操清修不染流俗リテタク ○指心自誓曰死靡悔マヌコト

○号泣請曰願ナミクニツラレヌ

○俯伏官廳請以ナケキ子ガウテイウニハド

以身代其主之罪ウソミガハリニタナタシト云 ○小人無狀告愬弗勤

以貶斯感故敢特冒官威義ノツヨ ○義而救

之威勢アル人ヲ ○抗直不避彊禦オソレヌト ○苦身焦思

○敢逃其死而二心乎イノチヲオシミフ

○以身捍之カラタラハメ ○帶甲而食ヨロヒキナカ

○逃難非夫也サイナンヲサクルハ ○臣雖命在オトコニアラス

○安可負君イマシヌル命ナレ

○請背城一戰レマシヤウ ○奮不顧身シテ

○以

死自誓カヒトスル ○舉家自盡カナイシウガ皆

○

○

之レハタカヒ
ニ結ヒ合フヲ
云交會ト云ト
キハイレマセ
ニナルコト交
合モ同意也文
牙相ヒ接スル
ノ義也

互

之レハイリコ
ミクヒチカヒ
ニナリタルヲ
云

遞

コレハソノツ
キハヘウケ
テヒキツク
コトニシテ驛

遼ニト云トキ
ハコノ驛ノサ
キニハカノ驛
アリト五十三
亭ノセンクリ
ノヒキツ、
キアルノ義也

送

之レハソノ跡
ハ出又ソノ跡
ハ出スルノ義
也遼ハツキク
ツ、クニ送ハ
ソノ間ノキル
ハコトモアル
ニ

錯

何面目立于天下天下ノヒトニア ○汝能盡忠
以事君吾死不恨父ノ子ナトニイ ○母曰爾為
忠臣吾即死復何恨ソナタガ忠臣トナルナレハ ○聲
家賞為軍費イエノタカラヲイタシ ○慷慨登陣以
忠義勉將士 ○就戮無所恨タトヒ死ヌルト ○
其義烈出於天性ウマレツキ ○按劍曰是吾
效節致命之日也ツルキヲナテ、イウニハコレ吾カ ○
雖與日月争光可也忠義ノコ、ロ日月トヒカリ ○以
興復為己任 ○起兵圖興復 ○枕城死示
可也シロラマクラニシテ ○每戰輒克終不下 ○

之レハタカヒ
ニ入りチカヒ
ニナルコト

俱

之レハ一処ニ
ナルヲ云俱在
ト云トキハフ
タツノモノガ
ヒトツニナリ
タルノ意也

偕

之レハ打ソロ
フテアルノ意
ニシテ衛風ノ
及爾偕老ト云
トキハ夫婦ナ
カラトモ

吾當以一死報國 ○與之同赴國難 ○刺
血書疏自縛闕下闕下ハミカト ○城中知必死
而莫有畔者ヨク人心 ○策馬赴敵軍而死 ○
身首殊死亦所不辭也クビトカラタハヘツクニナ ○
辭色哀測聳動官廳コトハアハレニシテ役 ○忠而
誠 ○責以大義斬之 ○慷慨大息曰オホキニ
之際不問成敗利鈍之所在大義著心從
容赴死者公與廷尉楠公特有西東前後
耳 ○忠孝節義 ○今日之事惟有死耳 ○

老ノシラカニ
ナルコトヲ云
俱借ノ別ヲ立
ルニタトヘハ
花ヲ觀ニユク
ニウチソロフ
テユクハ借也
或ハサキヘナ
リアトヘナリ
又ハベシトウ
ヲモチヒヤウ
タンヲサケテ
色々サマ〜
品カワリテモ
一処ニユクノ
ハ俱也

▲共

之レハヒトツ
コトヲヨリ合

聲氣諄々説大義不息○東西馳驅踏泊
又冒銃丸知有國而不知有身カラタラ國事ニ
勞セシムルコト
○其將死寸裂手記以投水中○獨奮曰
主家有福吾忍同路人耶主人ノ家ニワザハイアルノ
ニシラヌカヲシテハイラレ
○散私財以募死士己ノ金ヲ出シテ國ノ為
ニ死ヌル士ヲアツムル○感
憤悲愴無不感人○於人遭君父之變則
必憤々發干聲者似雷憤發干形者似震
憤發干氣者似山憤發干事者似海此即
道義之氣所鬱積而憤發而臣子大節藉
以暴白干世○引佩刀自部其胸○一家

テトモノニ
スルニ用ユ俱
借ハ体也共與
ハ用也

▲齊

之レハトモク
アヒソロフノ
意也

▲翕

之レハ双方ヨ
リヨリ合フコ
ト

▲併

又作并并スナ
ハチヒトツニ

皆燼矣カナイ中カヤ○遂伏劍而死○尚収拾
散亡以謀後舉敗軍時
ニ用ユ○趨進抱父尸亦死
○但恨我不得手贈汝曹耳トラハレテ賊ヲ
ノ、シルコトハ○
大罵曰狂賊吾恨不斬汝萬段同上○以頭
觸堂柱而死○吾生為聖朝民死為聖朝
鬼生死トモニ賊ニ
クタラサル○仰天号泣○臨死從容曰
吾事畢矣○我豈從若者耶○曰死當為
魔鬼以殺賊○曰城亡與亡即劈尸萬段
甘之如飴○遂自殺○矢盡而敗○遂舉
火與家人同赴火死ブカヤヘ火ヲツケ家内中
炎ノ中ニハマリシヌル○冒

ヨセテオクノ
意也アワセナ
ラハオクハ併
也ヒトツニ混
シテコマ子ル
ハ合也

與

之レハ上声ク
ミアハスト誤
ス又アタヘル
ト訓スルハ去
声也與被不同
ト云トキハ我
ト彼トナラヘ
テ云又不與彼
同ト云トキハ
我ノ内ニテ只
外ノミチカフ
ト云ト

白刃伏其身上被數劊○今日我死所也
○以刃抉其口兩旁至耳賊ニクルシメラレ又ハ
賊ヲコロス件ニ用ユ○曰我來此祇索一死耳敵陣使者ニユ
キタル件ニ用ユ○曰去
此一步非死所矣蓋城ノ件
ニ用ユ○挫辱不屈ツクシキハ
ツカシム
○曰我頭可斷膝不可屈○挺立不
跪ニ立ニナツテ
アヤマラヌ○觀之三日終不屈○至死
罵不絕聲○言訖而終○收其屍面如生
○張目如生○所以為憂者特在國家而
不及其私國家ノコトノミオモフテス
コシモワタクシナキコト○蓋君操持之
厚出于天性有忠臣之風云○監刑者為

及

之レハオヨヒ
ツクト誤メ波
及ト云ハナ
ミカソロク
ウチヨセノチ
ニハソノ処ニ
ヒツキタル
ヲ云自古及今
ト云ハ古ヲ
主トス自古至
今ト云トキハ
今ヲ主トス

之

コレハソレニ
付テアルモノ
ニシテ心ヲユ
カシメテ云也

之咋舌カム
氣ノサカシナル
ニオソレルヲ云○曰此義士也勿殺○
賊衆為之落魄ツクガキモヲ
ツブスコト○遂慨然授命○
遂遇害○愛其勇欲釋之○懸之樹間射
殺之キノユタニカケテマ
ヲモテコロスコト○嘆曰是鐵石人也コノ
ウココカ
ヌ○衆義之○雖然朝廷躋其才錄其
勲進贈爵位○壯其忠節以禮葬之忠義ヲサ
カントシ
○君之業於是乎有光於萬世○聞
者感泣○論者稱焉○由是顯名○雖再
起復職不得大施以終可謂不幸矣○然
忠義之心與浩然之氣相觸成文○時人

前出タルトハ
ハ鼓及鐘ト云
トキハ及字コ
用ユヘシ又梓
之鼓ト云トキ
ハ之字ヲ用ユ
ヘシ梓ハ鼓ニ
付テアルモノ
ナレハ也

▲將

之レハヒキユ
ルヨリ轉用シ
テト、訓スル
也前出

▲兼

之レハマタト
訓スルトオナ

莫不憐哀焉トキノ人コレヲ ○呼忠臣之ト死抑
今日又何日也乎忠臣ノシタル今日ハ ○前代未
聞忠臣也ムカシカライマタキ ○事再聞遂有今
命カサル忠臣ト云コト

記横山安武之事

西郷隆盛

横山安武稱正太郎森有怒之四子母隈
崎氏出繼横山安容之後為人忠實而泛
愛衆事親有婉容愉色之養而至于事君
則犯顏言人不能敢言者皆發忠愛之心
矣安武在君側十餘年排因習革旧弊且

▲暨

之レハ並ヒタ
ル物ニテ品等
ノタ、又処ニ
用ユ

▲越

之レハ一段コ
ユル処ニ用ユ
前出

▲逮

迨ト同シオヨ
ヒカ、ルト訊
ス

欲使宮中府中一體論辯不止其言一時
能行而下情上達官府無間隔者安武之
功居多焉一日英艦來戰於鹿兒嶋港人
家數百罹兵燹安武之家亦逢其災邦君
每戶賜金以救其急安武以多年勤勞之
功特蒙賞賜安武恤故人貧苦無資給者
乘夜以賜金竊投於其家而去窮家不知
其故踊躍以為天神之冥助也安武死後
親戚朋友檢其日記始知安武所為嗚呼
為利不謀為名不設自發於至誠未聞如

▲迄

オヨシテト訓
ス

▲相

之レハ平声扶
ケテトモ
ニスルコト

▲胥

之レハ平声モ
ト足ト云字ニ
シテ双字ヲモ
テ合フテ云相
ト用胥ハ体也

▲兩

是人也、安武任近侍、專輔導公子、孜孜不怠、以為成長於深宮、恐疎下情、切勸游學、而自隨行焉、有故召公子還、安武亦從而歸、藩則被棄其職、於是反身曰、當益勵志、以脩德業耳、再請游學、始到西京、去又至、東京、當此時、朝廷百官游蕩驕奢、而誤事者多、時論囂々、安武乃慨然自奮、謂王家衰頹之機、兆于此矣、苟為臣子者、不可不千思萬慮以救之、然而雖尋常諫疏百口、陳之力不足矯正、則無寸益而已、不如一

之レハ双方立
ナラシテ物ヲ
ナス也、竜樹善
薩ノ十二禮ニ
兩足尊ト云ハ
双方ノ足ニテ
五尺ノカラタ
ノ夕ナタルヲ
云兩馬兩翼兩
輪等同義也

▲耦

之レハフタツ
ヲヨセテヒト
ツニスルニ耦
生ト云ハフタ
ツノモノカ一
処ニハヘルコ
ト也、左氏ニ耦
俱無積トイヘ

死以諫之、若有所感悟、豈無小補乎、乃作諫書、陳旧弊事十條、持至集議院、押之門扉、退屠腹、津藩邸門前、實明治三庚午七月廿六日夜也、拂曉門吏開門、則有僵卧者、以為薩人也、告諸薩邸、々吏到、則安武也、扶起入邸、氣息未絕、曰、奉書集議院、語僅通、乃遣人問之於院、荅曰、今朝院門有封書、上干政府、走歸、具以其狀、告安武、々々如自得焉者、而即瞑矣、嗚呼、以身當難、安武平生言果不食也、於是乎、世人感安

武之死諫空論忽止時弊亦以漸而改惜哉安武以忠實之資未能大有為而為史鮪之尸也噫

竊

又作竊入ノシ
ラ又問ヲ云頭
ヲ畏レ隱ニ為
スコトアルノ
義ニ竊准竊以
ナト、イヘリ
孝烈第四附烈女義童
性篤孝ムマレツキ ○以孝稱コウクノ ○事父コウクノ
母孝謹 ○事父母以孝聞 ○以母老不願

私

之レハ對公ノ
言ニシテナイ
セフニト誤ス
私見ト云トキ
親以孝稱 ○以父老歸供養
以女子之身而勇烈不愧武人

ハ入ヲノケテ
ヲノレカ一身
ノ見込シト云
コト又私謁ト
云トキハナイ
シヤウヨリ色
タノツカヒモ
ノヲシテヲク
ニトリ入ルコ
ト
○事母盡孝 ○家貧傭賃為養其
母イエヒシナルユハヒヤ ○哀動傍人他人マテモモラ
躬自侍養 ○殫心力侍疾コ、ロ一盃ヤマヒノ
親自持侍晝夜不眠ソハニハンヘリヨ ○侍母疾
衣不解帶者數年マ子ムルコト ○母病遂愈 ○
誓斷酒肉禱之禁酒ナトシテ ○時人以為孝感
所致コヤノヤマヒノナヲルコトハ ○乃自禱于神明
誓絕穀食及魚肉以終身 ○陞老女職賜
紅袴小搥以贊其儀例也婦人ノ立身マ ○又為
君憂之則烟酒之類亦絕之以禱焉サケモタ

陰

之レハ陽之反
ヒツカニト誤
ス

暗

之レハ明ノウ
ラニシテ目ニ

ミハサルノ義
之暗燈ト云ト

チテカミサマニ
イノリヲカクル

○号泣呼天禱神得方

神ノタスケニ
テ奇妙ナルク

キハ光リノナ
キアンドウヲ

スリカ手
ニハイル

○禱畢而其病果愈○聞者莫不歎

云暗夜ト云ト
キ八月モ星モ

服 キクモノ皆カ
ニシンスル

○幼喪父哀毀遇禮

ソノ光リナキ
ヨルノコトニ

ツル

○号慟不自勝

之レハ比周無
間ノ称也

絶無婦人咕嚕之態

○奉職深宮數十年

之レハ隱伏理
影ノ義

奉母至孝

○遇祭祀輒慟絶

之レハ人ノ目
ニカ、ラス処

其没也毀瘠幾減性

○父為忠臣

之レハ人ノ目
ニカ、ラス処

子為孝子夫何恨乎

○邑人号其居為孝

之レハ人ノ目
ニカ、ラス処

頃里

○忠孝萃于一門

ヲ云佛家ノ語
ニ微塵ト云ハ

○自古忠臣非無孝也○呼忠臣也孝子

凡夫ノ眼ノヲ
ヨハサル処ヲ

也○蠲其一戸租調以旌孝行

孝子ノ一軒前ノシ
ヨ子ニクフユルシ

之レハヨウヤ
クソノコロニ

一時傳為純孝所感天祐之矣

孝コ
ハニ

ナリタルコ云
遅明遅且等

誓以身殉

○不幸遽失所夫

ノコトシ

○自矢不再適

○婦

之レハハヨウヤ
クソノコロニ

道既備

○婉焉而得其正

之レハハソノ程
限ヲハカリテ

○守節自誓

○志烈秋霜心負崑玉

之レハハソノ程
限ヲハカリテ

○苦節堅守者歷十有餘年

オツ
トニ

之レハハソノ程
限ヲハカリテ

○且曰生為義家婦死為義家

オツ
トニ

ヒラヨフシキ
リニト訓ス

▲乃

コノコロ

▲屬

コノコロ前出

▲間

アヒタニマシ
ハルノ義也前
出封禪書三問
者比年登トイ
ヘリ

▲通

鬼○屢有撼之者不少動サイエンラス、ムレトモキカス○屢

引刀自史キラントスル○以負節聞○我誓

不受辱一死也矣○父母勸慰久之始稍

進飲食○扶掖卧起雖甚久無懈怠意○

端坐不仆顔色如生○賊遂褫其衣貞婦

力拒○賊攬貞婦髮○可不謂賢矣哉○

語曰慷慨死節易從容就義難豈不然歟

○二烈婦蓋先後若一轍云二人ノ節婦ノ為セシ
カオナシヤウチ

○洵是義童之稱也○題曰烈婦某氏之

墓○其弟婦亦以節烈聞○曰吾夫之無

律ト同シ之レ
ハ現今ヨリ將
来ニカケテ云
ニ

コレハ其処ニ
至リツメタル
ヲ云

▲迄

之レハモト明
了ト熟シテア
キラカナリト
訓ス乃チサツ
ハリ事ノスミ
テアル意也

▲了

阿長者丹波小林邑木匠某妻也有二女

阿長傳

賴復

阿長者丹波小林邑木匠某妻也有二女

之レハムリニ
ト訳ス班超傳
注ニ臣猶遂
也トアリ不可
ノ義ヨリ轉シ
テセラレヌコ
トヲムリニナ
ス意也

▲終

コレハモト始
ノ及ニシテ始
終ノ処ガカヨ
ウアリシト云
処ニ用ユル也
終有得トアル
ハ終字全體ニ
カ、ル得ルコ
ト事ヲサラハ
況ク言フニ又

皆幼嘗江戸大災其思獲土木之利往江
戸更娶妻遂往江戸不通音信然阿長守
操能養二女為人縫裁澣濯以為活母子
粥々貧窶逼骨庭有一櫻樹謂是吾夫之
手植也猶視其夫日培溉其樹殆二十年
矣樹益茂二女皆嫁既而阿長病没實元
文三年四月也無幾樹亦枯矣人称之曰
操櫻邑人長谷川士常携阿長狀來曰操
櫻根株今猶存焉邑人皆恐根朽名亡也
請子記之使邑人知所警戒焉

終不迷ト云ト
キハ全体カマ
ヨハヌコトハ
有終得ト云ト
キハ一事ヲツ
イニ得ル也不
終迷ト云トキ
ハ今テコノ路カ
ツイニマヨハ
ヌ也終今終苦
トモイヘリ

▲竟

コレハトウク
ソノ事ノナラ
ナンタトキニ
用ニ畢竟究
竟ト云トキハ
ヲシツメテト

頼復曰阿長可謂貞婦也哉二十年之久
獨養其二女與櫻樹毅然不愛其操豈有
涵養而然乎然一貧匠婦必不暇聞婦教
蓋其貞操出乎天性也余觀古來忠臣節
婦不以遇不遇變其志阿長亦不愧焉世
之遠役及客商數年不還則其妻往々棄
其所生子走依私人使阿長有知則必將
怒罵地下矣余聞南朝之亡其忠臣義僕
多竄匿小林邑噫嘻阿長亦其後裔耶
本田氏二女傳 藤田九萬

諷ス留候世家
ニ遂北至藍田
再戰秦兵竟敗
氏ハイカホト
イクサシテモ
ドウシテモカ
タレヌヲ云竟
ノ字眼コ有リ
味フヘシ

卒

コレハソノハ
テト諷ス

遂

之レハ此事ア
リ彼事ニ成シ
トケタル意也
西事ヲアハシ

本田氏二女、長曰芳、少曰熊。長州北浦嶋人、逸父名兄虎之助、為奇兵隊士。丙寅七月、長兵入豊前、虎之助與小倉兵戰於赤坂、死之。芳年二十一、熊年十九、深傷。兄死、誓欲復讎、共請入戰隊、々將不許、固請、乃屬之輜重、皆著白衣袴、帶長劍、扶眉尖刀、出入行間。八月二十三日、姊妹過豊後橋、小倉兵四十人許、俄至、望見二女、銃射之。二女橫刀厲聲曰、若非丈夫乎、與婦女子鬪、何用火器、可執劍來、共支死敵、怒將進。

テ云処ニ用ユ
左傳ニ莊公寤
生驚姜氏故名
曰寤生遂要之
ト云コトキ痛
生ト云ヨリツ
井ニ惡ムコト
ニナリタルノ
意也

肆

前出故ニ今ノ
意也

連

之レハタ、ミ
カサ子テト諷
ス連年連日ナ
トノコトシ

迫之、會我斥兵來、橫擊走之、斬四人、獲八人。二女奮曰、願親斬此八人頭、以報兄之仇。拔劍三躍、盡斬之。於是隊將激賞二女、且喻之曰、汝所以報兄者、亦至矣。顧汝有老母、待汝嘗食、汝而死、將使老母誰之依、言未畢、二女泣然、泣下、即日謝恩、歸家。野史氏曰、語曰、精誠所至、可以貫金石、信哉。二女所以能奮亂丸之下、而纖手能斷八人頭者、非獨其膽大、其孝悌篤摯之出於天精神、一往而不可遏也。世之有鬚鬣者、

▲頻

コレハ彼ヨリ
ヲヒツ、ケテ
クル之

其膽豈皆小於婦人臨戰往々有愧於二
女者何也傳曰戰陣無勇非孝也吾今而
後知孝子臨陣必勇也

▲仍

之レハ以前ト
ハチカヒソフ
ナ処ニヤハリ
以前ノ通りニ
成テ出テクル
コト也

▲旋

之レハ追ヒツ
、ケル意也

明治文語粹金卷之二 終

